

○議長 辻本 一夫君

次に4番、萩原議員の一般質問を許します。萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

4番、萩原です。通告に従いまして質問してまいります。

件名1、認知症の早期発見について。

認知症は早期発見・早期対応が大切ですが、加齢によるものか認知症によるものかを判断することは難しく、医療機関への受診になかなか踏み切れず発見が遅れてしまう場合もあります。認知症の重度化や治療可能な認知症を見逃さないために、他の病気同様、認知症を早期発見し適切な治療につなげることや、予防や地域での支援につなげるきっかけづくりが必要であると考えます。そこでお尋ねいたします。

要旨1、認知症の早期発見について、その取組をお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

執行部の答弁を求めます。福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

アルツハイマー病や脳血管障害など様々な原因で発症するといわれている認知症ですが、多くの場合、早期に症状を発見し治療を開始することで症状の進行を緩やかにし、治療しない場合と比較して、その人らしい生活を長く続けることができると言われております。福祉課では認知症の人を早期に発見するための取組としまして、要介護認定を受けていない高齢者や、家族や民生委員などから相談・情報提供のあった高齢者を対象に保健師による戸別訪問を行い、必要に応じて本人や家族に対して認知症の専門医療機関への受診を勧めているところでございます。

これらの取組を進める上で、当事者が専門医療機関を受診することに対する心のハードル、こちらを取り除くことが重要となりますので、訪問活動と併せて広報紙への認知症に関する記事の掲載や、認知症のセルフチェックや専門医療機関が記載された「認知症あんしんガイド」の配布、認知症サポーター養成講座などを通して認知症に関する正しい知識の啓発を図り、早期の治療開始の重要性について住民の方へ理解が深まるよう取り組んでいるところでございます。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、課長からお話がありました「認知症あんしんガイド」、これなんですけども、「認知症あんしんガイド」のチェックリストに答えていって何点かとかですね、後ろのほうに認知症の専門の医療機関等が書かれているようなものなんですけども、私このガイドをですね、数人の友人に見

せました。皆さん知りませんでした。

地域福祉計画の令和3年度の行動計画で、このガイドは必要に応じて配布するという計画になっております。先ほどサポーターの制度のことも言われましたが、実際にはサポーター制度の受講者もそんなに多くありません。せっかくお金をかけ良いものをつくっても、適切に活用されなければ効果は出ません。現状で、このガイドは認知症の早期発見にどう活用され、また効果を発揮しているのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

活用方法としましては、「認知症あんしんガイド」は福祉課窓口や芦屋中央病院の待合室のラックに設置しているほか、高齢者宅への保健師訪問時に必要に応じて配布しております。また、世界アルツハイマー月間である9月に図書館にて特設ブースを開設し、ガイドを設置しております。

効果についてですが、「認知症あんしんガイド」によるセルフチェックは御自分または家族による気づきによるものなので、数値としての効果は把握できておりません。しかし、「専門の医療機関が記載されていて分かりやすい。」、「スムーズに病院に行くことができた。」などの評価をいただいております。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

じゃあ、要旨2に行きます。認知症の正しい理解の推進について。

ある住民から「友人に物忘れのような症状があるので心配している。受診を勧めたいが、なかなか言い出せない。」というような相談を受けました。他の病気なら早めの受診を勧めるのに、なぜこの物忘れはそれができないのでしょうか。また、別の住民からは「認知症になって人に迷惑かけたくない。」、「認知症になったら死んだほうがまし。」、「恥ずかしい。」というような声もありました。このような思いが根底にあるため、「相手がショックを受けるかもしれない。」、「人間関係にひびが入るかもしれない。」と感じ、受診を勧めることができないのではないのでしょうか。

今も認知症は、完全な予防や根治する薬はありません。しかし治療で進行を遅らせ、治る場合もあります。認知症になる前の軽度認知障害は予防に取り組みれば発症を防ぎ、症状が改善する場合もあると言われております。そもそも認知症はゆっくりと進行する病気で、急に何もできなくなるわけではありません。早期に発見することでその後の生活設計を見直し、準備することができます。また、徘徊したり大声を出したりする人は全体の1割程度と言われ、症状の出方も人それ

令和3年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

それぞれです。私は、気になる症状があってもなかなか受診につながらない要因は、認知症に対する正しい知識が不足しているからではないかと推察しております。つまり、認知症を正しく理解することが早期発見につながる1つの方法ではないかと思えます。

今、課長から、『このガイドでチェックできて、つながってよかった。』という声もあってる。』という話ですが、実際にはそれほど活用されてないのではないのでしょうか。今後、知らないという、さっき話もありました。今後、町はどのように認知症の正しい理解を推進していくのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

認知症に対する正しい知識を周知する施策として、町では認知症講演会や認知症サポーター養成講座を実施しております。現在はコロナ禍につきまして、講演会は昨年度に引き続き開催できておりませんが、重要な施策として今後も引き続き推進していきたいと考えております。また、認知症を正しく理解するとともに高齢者本人や家族がセルフチェックできる機会を増やし、気になる点があれば専門医療機関等へ相談できるよう、相談先の情報を提供することが重要と考えております。よって、セルフチェックや専門医療機関を記載した「認知症あんしんガイド」を有効活用し、幅広い世代に周知したいと考えております。

住民の皆さんの目に留まることが重要と考えますので、広報あしやでの特集記事の掲載や「認知症あんしんガイド」の折り込みを行いたいと思います。また、健康・こども課と連携し、各種健康教室や健康講座等で説明を加えてのガイドの配布をしたいと思います。これらの方法により、それぞれの御家庭でセルフチェックできるきっかけづくりに、より一層努めてまいります。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ぜひ、取り組んでいただきたいと思います。

要旨3、物忘れ検診の導入について。

先に述べたように、認知症は自分自身が発症していないか不安はあっても医療機関への受診に踏み切れなかったり、家族や友人が気づいていても検査を勧めにくいのが現状であります。そこで何かよい対策はないかと調べていたところ、物忘れ検診を導入している自治体があることを知りました。残念ながら県内で実施している自治体は見つけることができませんでしたが、埼玉県全域、横浜市、神戸市、ほか9市で実施していることを確認いたしました。

令和3年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

その目的は、認知症の早期発見と重症化予防などの早期対応です。自己負担無料で地域のかかりつけ医などで簡易検査を受け、認知機能の低下の疑いがあれば専門医を紹介し、認知症の診断を受けるといった流れになっております。要経過観察者になった人や家族に対し、かかりつけ医が経過観察を行い、地域包括支援センターと連携し、その後のフォローで必要な支援につないでいる自治体もありました。物忘れ検診は住民が抵抗なく認知症治療を受ける糸口となり、また、予防に向けた働きかけを行っていくシステムの構築にもつながるのではないかと考えます。

現在、町では認知症を早期発見するための有効な取組が、まだまだ進んでないかと思えます。今後、芦屋町でも認知症の早期発見の施策として物忘れ検診の導入を考えてはどうかと思えますが、いかがでしょうか。

○議長 辻本 一夫君

福祉課長。

○福祉課長 智田 寛俊君

物忘れ検診は、全国的に比較的大きな市で実施されてるようです。今、議員から説明がありましたが、この検診は認知症の診断を行うものではなく、医療機関が認知機能の低下についてチェックリストによる簡易的な検査を行い、認知能力の低下が疑われる場合は認知症の診断医や専門の医療機関を案内しているようです。芦屋町における地域包括支援センターでの現在の取組や他自治体の事例を検証し、実施について必要性を検討したいと思います。

以上です。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

最後に、長引くコロナ禍で他者との交流の減少などで、認知症の発症が増加していくのではないかと危惧しております。実際、今回の決算でも介護の給付費が前年よりも上がっております。認知症になっても安心して暮らせる町を目指して、この「認知症あんしんガイド」にもしっかり書かれております。ぜひとも早急に導入していただくよう、よろしくお願いいたします。

では次に件名2、洞山・柏原漁港周辺の活性化について。

なみかけ遊歩道からの洞山、千畳敷、狩尾岬、夏井ヶ浜はまゆう公園へと続く海岸線は、ほかにはない芦屋町の魅力ある場所です。しかし、その周辺には多くのごみが見られ、洞山には案内図などの看板もなく、観光客には「分かりづらい。」との声も上がっております。また、手前の堂山の海岸線は崩落の危険もあり、漁港フェンス側からも安全に行ける環境は整備されておられません。さらに、柏原漁協が管理していた海の駅も休業したままで、飲食できる場所もなくなり残念に思っている住民や観光客もいます。この状況では、地域資源を生かした観光の魅力づくりが進めら

令和3年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

れているとは言い難いと思います。そこで、洞山・柏原漁港周辺の今後の活性化の方向性についてお尋ねいたします。

要旨1、洞山及び柏原漁港周辺の清掃状況についてお尋ねいたします。

今年の春、洞山周辺をサイクリングしていた観光客から「ごみが多い。」との御指摘をいただきました。私も昨年秋から半年以上この周辺の様子を見てきましたが、確かにごみは目立ちます。清掃は定期的に漁協の婦人部の皆様などが行い、また、スポット的な清掃も行っているようですが、それでも観光客からは「ごみが多い。」との御指摘をいただく現状でございます。

観光客の声を受け止め、今後改善に向けた対策は何かあるのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

所管のほうからお答えをさせていただきたいと思います。

現在は所管係において週に1回～2回、海岸周辺のパトロールを行っており、柏原漁港周辺のごみの状況について確認をしているところでございます。柏原漁港周辺は洞山を有する景勝地でもあり、なみかけ遊歩道から夏井ヶ浜へと続く観光ルートの中間地点でもあることからサイクリングやドライブなど多くの方がすばらしい景色を期待され、訪れていただいているものだと思います。そういった観光の視点からも担当課としまして、ごみのないきれいな状態を保ちたいと考えております。

きれいな海岸を保っていくには、現在の取組で達成することは容易なことではないと考えております。しかしながら多くの方が訪れる場所であることもあり、改善を図っていくことが必要であると思っております。現在行っております定期清掃や漂着ごみの回収の継続はもちろんのことだと思っておりますが、そのことに加え、住民の方々など多くの方とも意識を共有し、また、訪れた方にもその姿勢や意識が伝わるよう機運を高めていくことも今後の課題ではないかと考えます。所管課としましては海岸周辺のパトロールを継続し、周辺のごみの状況を把握していきたいと思っております。

その状況も踏まえ、今後の対応や効果的な方法について検討し、改善に取り組んでまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

これから担当課がパトロール等で様子を見るということで、引き続き私も経過観察していき

いと思います。

ただ、私も以前からごみについては担当課に問題提起しておりました。いつまで様子を見ればよいのでしょうか。清掃も現状のままでいくのか、何か対策を講じる方向で御検討されるのか、その結果はいつ頃お出しになるのでしょうか。お考えがあればお答えください。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

今後の検討ということでお答えしたいと思います。

ごみにつきましては主に来訪者などにより捨てられたごみ、それと海や川から漂着したごみ、こちらの2種類があると考えております。漂着ごみにつきましては補助金等を活用し、今後も回収を行ってまいりたいと考えております。

所管課としてましては、まず来訪者などにより捨てられたごみの改善について検討を進めていきたいと思っております。取り組む課題として今考えていることですが、まず1つ目、先ほどお話もありましたように現状の改善、こちらについて。2つ目にマナーアップの向上というものを考えていきたいと思っております。現状の改善につきましては特に来訪者が周遊する場所を重点エリアとし、現在の清掃業務エリアや内容の見直しについて関係者とも協議を行い、進めていきたいと思っております。マナーアップの向上につきましては芦屋町の交流人口増加などの取組を検討する観光芦屋協議会において、観光推進の観点からもマナーアップの向上について、その対策などを今後話し合っていきたいと考えております。

こういったことを今、現状考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今の私の質問は、結論は大体いつ頃をめどに評価されるのかっていう質問で、何をされるかっていう質問ではなかったんですけども、お考えがなければもう次に飛ばします。

要旨2、昨年から漁協が管理する海の駅は休業状態にあります。先日、観光客に洞山観光のきっかけをお尋ねすると、「以前、ネットで海の駅を見つけて食事をした。」と話されておりました。また、別の観光客は「かき氷など、ちょっと食べるものがあるといい。」という要望もありました。この周辺にはコンビニはおろか買物する場所もありません。せっかく観光客が訪れても、お金を落とすことはないのです。

洞山は町を代表する観光地であっても、ここに経済を回す仕組みはありません。観光と経済は

令和3年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

一体的に考えていく必要はないのでしょうか。洞山、そして柏原漁港周辺の地域経済の活性化を町はどのようにお考えなのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

現在の洞山周辺の状況としましては観光客を受け入れる店舗などはなく、唯一飲食店として営業を行っていた海の駅は、現在休館した状態となっております。

洞山周辺の地域経済の活性化についてですが、現在のところ洞山周辺に特化した具体的な計画はございません。第6次総合振興計画では、水産業の主要施策として新たな商品開発や地産地消の取組、また、育てる漁業を支援していくことなどを掲げております。この施策を推進することにより、地元経済の活性化につなげていきたいと考えております。また、観光面では洞山周辺のみならず、なみかけ遊歩道、柏原周辺から夏井ヶ浜周辺にかけての山鹿の観光エリアとして、観光及び活性化策を考えていく必要があるものと考えております。

今後の観光施策の推進に当たりましては、総合振興計画にもありますとおり芦屋町観光基本構想に基づき施策を進めていくこととしておりますので、方向性等につきましては来年度作成を予定しております観光基本構想の中でも課題として検討させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今お話にありました観光基本構想の計画、次の期間はですね、2023年4月からではないでしょうか。まだ1年半以上もあるんですね。洞山周辺では唯一の飲食店だった海の駅が休業し、1年以上になります。先延ばしにせず、ぜひ早めにですね、地域経済を考えた施策をですね、検討していただきたいと思います。

では要旨3、今後の洞山観光の方向性についてお尋ねいたします。

今回、私は通告書の要旨に「洞山には看板はない」と書きました。実際にはトイレ付近に看板がありましたので、ここで訂正を申し上げます。しかし、洞山を観光する上でそのような離れた場所にですね、看板があっても皆さん気づかれないんじゃないでしょうか。私も気づきませんでした。そもそも看板自体も、洞山を観光するにはちょっと分かりづらいものではあると思っております。また、漁港のフェンス側から奥の洞山に行く道沿いの草は伸びて、2つの山の洞山の間の平地の部分はですね、舗装もされておらず、使用禁止になったままのトイレ、雑草、ペットボトルなどのごみも落ちております。そして、観光客は洞山の洞窟を見るために波よけの胸壁にある

令和3年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

切れ目から降りてですね、その切れ目は水抜き目的のため安全に降りれるようになっていないんです。ちょっと段差が高いということを皆さん言われてます。このような状況で本当によいのかなど、私も行くたびに思っております。

今後どのように安全対策を講じ、観光客の利便性を向上させていくお考えがあるのかお尋ねいたします。

○議長 辻本 一夫君

産業観光課長。

○産業観光課長 浮田 光二君

お答えいたします。現在、芦屋町観光基本構想の基本施策の中に、洞山一帯については海洋性レクリエーションエリアと漁業エリアに区分し、観光客にとってさらなる利便性の向上を図っていくということになっております。この施策に基づきまして平成27年に柏原漁港周辺産業・観光整備工事を実施し、漁業区域との区分けとなるフェンスの設置や、利用者の利便性向上のため堂山入口の駐車場の整備、奥の広場整備などを行っております。

利便性向上につきましては、御指摘にあります洞山の案内図がなく分かりづらいということでございますが、確かに現在は洞山の紹介などが詳しく表記された案内看板は設置されておられません。この点につきましては観光客の利便性の向上や観光の視点からも、看板設置については内容も含め検討させていただきたいと思っております。

また、安全面の点で議員御指摘の場所の1つは、以前議員からも情報のほういただきました洞山奥にある胸壁付近のことではないかと思っております。確かに段差が大きいところがあり、安全とは言えない箇所も確認しております。この箇所につきましては来年度予定してあります胸壁工事において、併せて対策を行うことが可能なのかも含めまして検討させていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

ぜひしっかりですね、皆さんがよく、最近コロナ禍になりまして観光に来られる方が増えております。安全に皆さんが見ていただけるように対策を講じられるよう進めていただきたいと思います。

続きまして先日ですね、観光客から「もっと洞窟を見たいんですが、岩場が滑るので何かつかまるものとか橋のようなものがあるといい。」というような御意見をいただきました。潮の状態、お天気の状態にもよると思うんですが、確かにつるつるしており、滑ると私も感じました。また、

手前の堂山横の海岸は崩落によりロープを張っているため、砂浜の近くを歩くことができません。また、潮の満ち引きで磯遊びもですね、しづらい状況にはなっていると思います。

そこで、手前の堂山横の磯と御指摘いただいている奥の洞山のところにですね、人が歩けるような橋のようなものをですね、つくってはどうかとちょっと思っております。広報あしや8月号に、町制130周年の特集記事で観光化が始まった洞山の写真が掲載されているんです。私あの写真を見てですね、本当に風情があってとてもいいなと思いました。私の年だからそう思ったのかもしれませんが、あの写真にはですね、2つの洞山をつなぐ栈橋なのか遊歩道なのか、橋のようなものが写っております。渡れるようになっているんだと思います。昔はつながってなかったからですね。

昔のような水族館があった頃をね、再現することはできないと思います。しかし、今の時代に合わせた新しいスタイルで、観光客の皆さんを安全にお迎えするための何か施策が必要なのではないかなと思うんです。洞山の自然や周辺の環境に配慮する必要は、本当に十分あると思います。また、財源の問題もあると思います。ただ、せっかく町を代表する洞山です。あの形の洞山、検索してみてください。県内で出るところは、ここと糸島のほうしかありません。あのようものがあるのが本当に芦屋を代表するものなのに、今のままで本当にいいのでしょうか。何かよい方法を考えていただくことはできないのでしょうか。

町長、時間は4分残しております。しっかりお考えをお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○議長 辻本 一夫君

町長。

○町長 波多野茂丸君

非常に熱心な御提案をいただいたわけですが、まさに洞山は我々が小さい頃遊んだ場所ですが、全然もう形もいろんな変わりましたですね。昔は太鼓橋がこうあったんですけど、言われましたように料亭もありました。それから水族館というか、小さな水族館もありました。時代の流れとともに今のような状態になったんでしょうが、私も常々、たまにですが孫を連れてぶらっとうち歩くことがあるんですけど。

何かせっかくのところやからということで、たまにですけど考えることがあるんですが、実は学生時代に尾瀬ですかね、尾瀬国立公園。あそこに行ったときに、あそこの沼地にですね、木をずっとこう歩いていく。岩場が危ないんで、あそこに木の道というかそういうのをつくったら安全に、そして横からちょっと降りれるとか、左側は崩落して危ないです、ちょっとこっぴへたに移して、少し移してですね、そして向こうまで歩いていく。そしたら、小さな子供たちも昔我々が遊んでいた磯遊びというのができるのではないかなと思っております。議員が言われるよ

令和3年第3回定例会（萩原洋子議員一般質問）

うに洞山は昔からですね、芦屋町のシンボルでございますので、何とかそういうような計画をですね、実施計画に上げるようにちょっとお時間を、そんなに長くかからないと思いますけど。

それともう1つ、やっぱりこの洞山に限らずですが、芦屋に来ていいんですけど、食べるところ、この食べるところというのは、もう一番今苦慮しているところでございまして、芦屋に来てぜひ商売してくださいというように、いろんな形で投げかけしたり補助金出したりしてるんですけど、なかなか、もう少し魅力がまだ足りないのかなとか、それから情報が足りないのかなというふうに思うわけでございます。

この洞山につきましては議会の皆さん方のいろんな意見もお聞きしてですね、それから町民の皆さんの意見もお聞きして、すばらしい公園地というか、安心して遊べる、安心して行けるようなところに、ぜひやっていきたいと私も思っております。

以上でございます。

○議長 辻本 一夫君

萩原議員。

○議員 4番 萩原 洋子君

今、町長からもお話ありましたように昔を振り返りそのまま移すのではなく、今の時代、執行部の皆様にしっかり調査・研究していただいて、洞山をどうか活性化するように今後事業を進めていただきたいと思います。

これで私の一般質問を終わります。

○議長 辻本 一夫君

以上で、萩原議員の一般質問は終わりました。